

SDGs 推進に向けた産業施策の今後の展開について

産業振興を軸とした取組に対し、自治体 SDGs モデル事業が選定された。

「産業振興を通じたまちづくり」という観点から、経済・社会・環境の三側面を意識した持続可能なまちの実現に取り組んでいくために、課題を整理したうえで、今後の展開を考察した。

1 調査の概要

自治体 SDGs モデル事業の中核的取組である「ハードウェア・スタートアップ拠点構想事業」のより効果的な推進を図るため、その拠点としている「八広・東墨田エリア」及び「錦糸町エリア」において、以下の項目の調査を実施した。

区内全域に経済活動が連動するように、各エリアの経済活動に関わる事業者（区内事業者、企業など）とその成長ステージ（起業期、スタートアップ期、ミドル期など）を見据え、事業が展開できるようにする。

（1）現状分析

- 人口構成と推移
- 立地特性と交通環境
- 産業集積の現況
- 地域課題捕捉のための事業者ヒアリング

【対象エリアの範囲】

八広・東墨田エリア：八広一丁目～六丁目及び東墨田一丁目～三丁目

錦糸町エリア：錦糸一丁目～四丁目、江東橋一丁目～五丁目、太平一丁目～四丁目

（2）各エリアにおける「産業振興を通じたまちづくり」の方向性について考察

時代潮流を読みながら、調査分析結果を踏まえ、各エリアの強みを考察する。

考察に当たっては、SDGs に資する経済活動が持続的に増え、その結果が、区民の生活を豊かにし、当事者意識を高めていくという循環となっていることを念頭に置く。

（3）取組の進捗を測る成果指標（KPI）

本報告を具現化させ、成果を検証していくための指標は、策定予定の「産業と観光の将来構想」中の各戦略のKPIと連動させる。

2 調査結果及び考察

(1) 八広・東墨田エリア

【地域の概況】

区内唯一の工業地域があり、また、未利用の公有地が多く存在している。

- 区北東部に位置し、面積は約 2.0 km²で区全体の 14.5%
- 東墨田一丁目～三丁目は区内唯一の工業地域
- 所有地、旧小学校跡地など、未利用の公有地が多数存在

【人口構成と推移】

直近 5 年間の人口増加分の 9 割以上が生産年齢人口である。

- エリアの人口は 25,217 人（令和 3 年 4 月 1 日現在）区全体の 9.1%
- 人口は平成 23 年度比で 111.4%、区全体の人口は平成 23 年度比 114.7%
- 高齢化率 25.5%、区全体の高齢化率は 22.1%
- 直近 5 年間で 1,177 人の人口増加、うち 1,113 人（94.6%）が生産年齢人口

各年度における 4 月 1 日現在の人口と比率（出典：墨田区住民基本台帳）

	15歳未満		15-64歳		65歳以上		合計
R3年度	2,767人	11.0%	16,012人	63.5%	6,438人	25.5%	25,217人
H28年度	2,715人	11.3%	14,899人	62.0%	6,426人	26.7%	24,040人
H23年度	2,551人	11.3%	14,403人	63.6%	5,683人	25.1%	22,637人

【交通環境】

八広駅の利用者数は増加傾向となっていた。

- 京成押上線八広駅の利用者数はコロナ禍の前まで増加傾向
- 路線バスは都営バス 4 系統、区内循環バス北東部ルート of 5 路線

八広駅の 1 日当たり乗降客数（出典：国土数値情報）（単位：人/日）

平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
10,239	10,418	10,947	11,541	11,993	12,440

都営バス / 上 23（平日 39 便、休日 51 便） 錦 37（平日 63 便、休日 60 便）

草 39（平日 42 便、休日 57 便） 里 22（平日 71 便、休日 62 便）

【産業集積の現況】

製造業の集積が見られる一方で、小売業や飲食店の数が少ない。

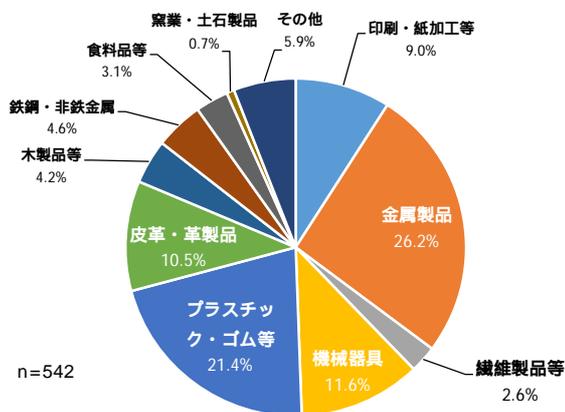
- 製造業は区全体の 17.3%が当該エリアに立地
- 製造業の中でも、金属製品（25.9%）、プラスチック・ゴム等製品（29.1%）、皮革・革製品（23.3%）が多く集積
- 小売業（5.8%）、飲食店（4.2%）は面積比・人口比よりも少ない。
- 製造業従業者数は町丁別で東墨田二丁目が区内第三位、八広六丁目が第六位
- 製造業以外も含めた全業種の従業者数合計は 8,331 人

区内業種別事業所数に対する八広・東墨田エリアにおける集積率

(出典：平成 28 年経済センサス活動調査)

金属製品	プラスチック・ゴム等	皮革・革製品	鉄鋼・非鉄金属	その他製造業	小売業	飲食店
25.9%	29.1%	23.3%	23.4%	11.0%	5.8%	4.2%

八広・東墨田エリアにおける製造業の業種別構成比



(出典：平成 28 年経済センサス活動調査)

区内の町丁別製造業従業者数 (出典：平成 28 年経済センサス活動調査)(単位：人)

区内全域	文花二丁目	本所一丁目	東墨田二丁目	立花五丁目	吾妻橋一丁目	八広六丁目
23,458	2,136	823	724	551	550	518

上位のみを表示

【事業者ヒアリング概要】

都市部でのものづくりを強みに。働く人たちのための生活環境改善を。

大量生産品は価格面から地方の工場には勝てない。都市部でものづくりできることを強みとするため、開発実験拠点としての力を高めていくことが重要

小規模事業者が点在しており、連携を強化するための環境づくり、しかけについて行政の支援が必要。公共用地の有効活用を望む。

皮革産業は国際的な価格競争にさらされ、減少を続けている。付加価値を高め、価格競争から脱却するための取組が必要。付加価値を高めるためには、SDGs の視点から操業環境を改善していくことが求められる。

新しい区民との相隣問題が生じている。事業の理解を深めるための取組が改めて必要となってきた。住民や働く人たちが食事をしたり、コミュニケーションを交わす場が必要

まちなみ、景観や食事・買い物の環境を整えていくことが、地域で働く人たちのモチベーションの向上につながるとともに、地域の活性化につながっていく。

(2) 錦糸町エリア

【地域の概況】

複合型の機能を有する中高層建築物が多いが、老朽化が進んでいる。

- 区南東部に位置し、面積は約 1.16 km²で区全体の 8.4%
- エリアの大部分が商業地域で、容積率も最大 700%
(商業地域以外)
 - ・近隣商業地域(錦糸一丁目の一部)
 - ・錦糸公園(第一種住居地域)
 - ・準工業地域(錦糸土木事務所跡地を含む錦糸四丁目の一部、江東橋五丁目)
- 築 30 年を超える中高層建築物が多く、老朽化した各種施設の更新が見込まれる。

【人口構成と推移】

人口が著しく増加しているが、年齢 3 階層別人口比は変化が小さい。

- エリアの人口は 26,781 人(令和 3 年 4 月 1 日現在) 区全体の 9.7%
- 人口は平成 23 年度比で 125.4%、区全体の人口は平成 23 年度比 114.7%
- 生産年齢人口比率 74.0%、区全体の生産年齢人口比率は 67.6%
- 平成 23 年度比で 5,418 人増加しているが、年齢 3 階層別人口比は横ばい

各年度における 4 月 1 日現在の人口と比率(出典:墨田区住民基本台帳)

	15歳未満		15-64歳		65歳以上		合計
R3年度	2,487人	9.3%	19,822人	74.0%	4,472人	16.7%	26,781人
H28年度	2,674人	10.3%	19,184人	73.7%	4,172人	16.0%	26,030人
H23年度	2,157人	10.1%	15,686人	73.4%	3,520人	16.5%	21,363人

【交通環境】

空港を含め、高いアクセス性を有する。乗り換え等、交通結節点機能に課題がある。

- 鉄道乗り入れは JR2 路線(総武本線・総武線) 東京メトロ 1 路線(半蔵門線)
- 路線バスは都営バスが北口側 5 系統、南口側 14 系統、スカイツリーシャトル 3 路線、区内循環バス南部ルートが乗り入れ
- 長距離・高速バスが近隣ホテルから羽田空港・成田空港へ直通
- 2030 年代半ばの地下鉄 8 号線の延伸に伴い、更に利便性向上が見込まれる。
- JR と東京メトロを乗り換える際のアクセスが悪いこと、南口側のバスロータリーの稼働状況が飽和状態となっていることなどが課題

錦糸町駅(JR)の 1 日当たり乗降客数(出典:国土数値情報)(単位:人/日)

平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
202,500	207,044	207,096	210,382	212,444	211,338

【産業集積の現況】

商業機能が集積。昼間人口（従業者）が夜間人口の約 1.5 倍となっている。

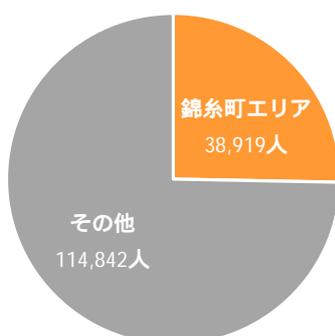
- 製造業は区全体の 5.4% が当該エリアに立地
- 卸売業（13.6%）、小売業（20.7%）、宿泊業（48.8%）、飲食店（25.4%）、娯楽業（37.1%）が面積比・人口比を上回って集積
- 全業種従業者数が 38,919 人とエリア内人口を超過し、区全域の 25.3%
- 卸売業（3,060 人）、小売業（5,022 人）、飲食店（4,865 人）と、商業関係の従事者が多い。

区内事業所数に対する錦糸町エリアにおける業種別集積率

（出典：平成 28 年経済センサス活動調査）

食料品等製造	繊維製品等	卸売業	小売業	宿泊業	飲食店	娯楽業
12.3%	7.5%	13.6%	20.7%	48.8%	25.4%	37.1%

錦糸町エリアとそれ以外の区内エリアにおける従業者数（全業種）



（出典：平成 28 年経済センサス活動調査）

【事業者ヒアリングの概要】

ポテンシャルは高いが、まちづくりのバランスに課題

アクセスがよく、海外企業の誘致先としてのポテンシャルも十分高い。

地下鉄 8 号線の延伸が見込まれる。また、近隣の大規模再開発が進んでおり、将来需要が高まることが期待される。現在から、まちのビジョンを地域の中で共有し、まちづくりに取り組んでいかなければならない。

住んでいる人、働いている人の国籍や、飲食店の豊富さなど、「多様性」がまちの特徴であり、人を惹きつけるまちの魅力になっている。

錦糸公園、墨田区総合体育館、トリフォニーホールに加え、商業施設が集積していることにより、親子連れだけでなく、多様な目的を持った人が集まってきている。

たばこのポイ捨て、違法な客引き、ルール違反の事業用ごみの搬出などが絶えない。誰もが安心できるまちづくりに取り組まなければ、まちの将来ポテンシャルに影響が出る。

3 SDGs 推進に向けた各エリアにおける「産業振興を通じたまちづくり」の展開

SDGs の重要な観点とは、

経済、社会、環境の調和であり、経済偏重で社会や環境に負荷がかかりすぎる施策展開では、成果を上げられない。経済活動により「稼ぐ」ことが、直接的に持続的な開発目標に結びつけられるようなことも求められる。

日々の生活の中で、一人一人が当事者意識をもった「きづき」が重要であり、それが誰一人取り残さない取組につながる。

これら SDGs の視点を踏まえて、「産業振興を通じたまちづくり」を展開していくための課題を整理し、各エリアの今後の方向性を検証した。

(1) 八広・東墨田エリアに関する課題と今後の取組

【課題】

ものづくりが暮らしを豊かにすることを実感できる

統計調査等から、生産年齢人口は増加しているものの、働く場は他地域であることが推察される。SDGs に資するものづくりのプロセスをオープンにし、事業者と住民相互の理解を深めていかなければならない。

住んでいる人にも働いている人にもやさしくなれるまち

職住近接が薄れていることや高齢者が増加していることから、暮らしに必要な日常的な買い物等に不便を生じるようになっている。

働きやすい地域環境を整えることにより、地域の課題解決につながるまちづくりを進めていく必要がある。

事業者の連携強化によるものづくりの力の向上

事業承継が必要な事業者が増えてきている。事業継続のためには集約化やネットワーク構築により、持続的に事業を展開できる環境支援を考えていく必要がある。

また、ハードウェアを必要とするベンチャーにとっては、新しいものづくりの場を提供できるしくみをつくることが産業集積を維持することにつながる。

【今後の取組】

社会課題の解決に資する製品の開発を、地域ぐるみで応援していくまちにする。

社会課題を解決するものづくりをすすめ、地域と連携してプロトタイプを実装していくしくみをつくる。【社会】

操業環境と地域の調和を重視しながら、商業環境や景観とも連動するまちづくりを進めていく。【環境】

産業集積を維持するため及び社会課題を解決するための企業を誘発させるために、旧小学校跡地や都有地の公共用地等を有効に活用していく。【経済】

(2) 錦糸町エリアに関する課題と今後の取組

【課題】

各種施設の更新の機会を捉えた交通結節点機能の強化

地下鉄 8 号線延伸を見据え、交通結節点機能を更に高めていくため、産業振興の視点からの課題を整理し、地域へ問題提起する必要がある。

誰もが安心して訪れられるまちづくり

国際空港とのアクセスの良さ、様々な食文化が楽しめる飲食店の集積等により国際色豊かな人々が集っている。

一方で、安心・安全などの地域課題に対応していくため、産業振興のみならず、都市計画や危機管理など様々な視点から、誰もが安心して楽しめるためのまちづくりを進めていく必要がある。

国際的な視点からのスタートアップの誘発

SDGs の視点からも世界的にも注目される事業者が拠点を構えることを契機に、錦糸町の文化や地域特性を生かすことのできる国際色豊かな事業者誘致の取組を強化していく必要がある。

【今後の取組】

まちのポテンシャルを最大限に発揮させ、世界とつながるまちにする。

地下鉄延伸など、交通インフラの更新時期は、まちが変わる好機となる。まちづくりのビジョンを共有化するしくみをつくり、鉄道駅のアクセス性向上、南北動線の円滑化に取り組み、商業環境の連携を強化させていく。【社会】

老朽化が進む都市施設の更新等にあわせ、安心・安全なまちの実現など、複雑化している地域の課題解決を進めていく。【環境】

多文化の色濃い地域特性やアクセスのよい立地特性などの優位性を生かし、SDGs の普及促進も視野に、海外を含むスタートアップ企業を誘引する。

そのために、錦糸土木事務所跡地に整備する施設の活用を含め、拠点整備の可能性を検討する。【経済】